

サウス・ダイ郡におけるマラリア予防促進活動《最終報告》

➤ 5月上旬から9月上旬(隊員帰国時)までに行った活動報告。

報告者：渡辺真奈 青年海外協力隊(JICAボランティア)
Ghana, Volta州, South Dayi郡保健局に配属

(1) マーケットや教会での保健指導

マーケットや教会において、マラリアの予防啓発を目的とした保健指導を実施した。

《対象》

コミュニティメンバー
妊婦・5歳以下の子供を持つ母親

《指導内容》

- ・マラリアの症状
- ・マラリアと貧血
- ・ハマダラカについて
- ・妊婦がマラリアになることのリスク
- ・予防法
- ・蚊帳の正しい使い方



□ 赴任先のサウス・ダイ郡では週に2回マーケットが開催され、郡内に住む多くのコミュニティメンバーが訪れる。また、キリスト教が生活と密に関係しているガーナでは、住民のほとんどが日曜日になると、教会へ礼拝に行く。そこで、マーケットや教会といった人の集まる場所をターゲットに保健指導を行うことで、マラリア予防啓発を促進することを目的とした。

□ 前期では隊員が主体となって保健指導を行ったが、9月以降隊員が帰国することを念頭におき、やり方を変更。資料や情報を共有しながら、看護師達に保健指導を行ってもらった。これにより今後の保健指導の継続を期待している。

□ もともと貧血になりやすい妊婦がマラリアに罹患すると貧血が重症化し、最悪の場合母子の命が失われる危険性がある。しかし、ボルタ州は他州に比べ、妊婦の貧血の割合が高い(2016年ガーナ保健局調べ)という報告があるため、今期は特に“妊婦とマラリア”ということにトピックを当て保健指導を行った。



☞ 教会にてマラリアの予防法について保健指導



☞ マーケットで開かれた幼児検診にて貧血とマラリアの関係について説明

(2) ガーナで活動中の他隊員と連携したマラリア予防啓発活動

Malaria No More Japanのロゴをシンボルとし、他州に派遣されている青年海外協力隊隊員と連携してマラリア予防啓発活動を行った。

《この活動を行った経緯》

ガーナでは外来受診の原因疾患としてマラリアが第1位であるため、ガーナ全土で多くの予防活動が行われている。職種や派遣先によって具体的な活動内容は違うが、「マラリアの撲滅を目指す」という一つの目標の下、心を一つに活動を盛り上げていきたいという思いから、Malaria No More Japanのロゴをシンボルとして他州の隊員と連携して予防啓発活動を行うことにした。

□ 参加者：ガーナ7州で活動している保健系隊員9名。活動内容の詳細は別紙資料を参照。
→Malaria No More Japanのロゴは缶バッチやバナー、ポスターとして使用

(3) 医療従事者への検査実施徹底強化指導

郡内にある保健施設のうち2つの施設を選別し、そこで働く看護師に対してマラリア治療を開始する前の簡易検査実施の徹底を強化指導した。

□ ガーナでは“発熱=マラリア”という考えがあり、発熱を主訴として来た患者に対して、検査をせずに投薬してしまう事例があった。そこで、間違った治療による患者負担の軽減や正しいデータ(マラリア罹患率等)の収集、無駄な治療薬使用の減少を目的とし、治療開始前の検査実施の徹底を強化指導した。

《結果》

1) Abui保健所(CHPS) : 89% → **98%**

2) Tsatee保健所(CHPS) : 85% → **100%**

2018年度の1月と比べ8月現在で、マラリアの確定診断率(治療開始前の検査実施率と同意)が上記のように増加した

活動の振り返り

ガーナではマラリアへの罹患があまりに日常的すぎるため、予防なんかしても「マラリア撲滅」が実現できるわけがないと思っている人が多い。しかし「マラリア撲滅」は達成できる目標だという強い認識を持ち、他人事ではなくコミュニティメンバー一人一人ができる予防策を行っていくことが必要であり、あきらめずに継続していくことが重要だということを、この二年間の体験を通し実感することができた。